



全被造界のいのちを心にかけて

2020年10月

私たちは他の人が自分たちの状況の話をするために同行し、
集団としての声を使います。

2019 総会の決意



世界ミッション月間

教皇フランシスの世界ミッション日曜日へのメッセージ:

福音書のエピソードにある、突然の激しい突風に襲われた時のイエスの弟子たちのように。わたしたちは皆、同じ船に乗り合わせているということに気づきました。皆、弱く混乱し、しかし同時に、一人ひとりが大切にかけがえのない存在であり、皆が一つになるよう招かれ、互いの慰めを必要としています。この船の上に…わたしたちは皆一緒にいるのです。「わたしたちは溺れそうです」(マルコ 4 章 38 節) と不安の中で声を合わせるあの弟子たちのように、わたしたちも、一人ひとりがもう勝手にふるまうことはできず、皆が一つになってこそ乗り越えられると気づいています。

([サンピエトロ広場での瞑想](#)、2020年3月27日)。

「一緒になって初めてこれができるのです。」これは、私たちが望む全てのこと、全てに当てはまります。しかし同時に、「一体感」は、すべての人が同じであるという意味ではありません。私たちは共通の人間性を有していますが、人間性の個々の外見、大きさ、形、年齢は異なります。種々の言語、習慣、文化は多様です。私たちの哲学、価値観、そして世界観はさまざまです。

国や州のような地理的な存在は、1つの同種のグループを創造するのではなく、人と人格のモザイクを結びつけます。1つのサイズがすべてに合うわけではありません！私たちは混じり合い、対照的で微妙な違いの虹を構成していきます。

教皇フランシスは、「私たちは皆、もろい存在で精神的に混乱しています。しかし、同時に私たちは重要な存在で互いを必要としているのです。」と述べています。

私たちは、一人ひとりが「大切に必要」であると信じているので、自分とは違う声に絶えず耳を傾け続けることが必要不可欠です。

これは易しいことではありません。特に異なる場合は尚更の事です！私たちのような人に自分自身を開くには、私たち、誰を「私たち」に含めるかについて考える必要があります。それから私たちの考え方や行動を一時的に中断し、偏見、バイアス、物事のあり方などについて、すぐに決め付けず、判断せずに保留します。

そうするとどうなりますか？ 私たちは祝福されます！

女優のサラ・ポールソンは、最近、彼女とは違う考え方や行動をする人の役割を演じることの重要性について、次のように説明しました：「あなたにとって自然ではないかもしれない考え方に目を向けるのは素晴らしい機会です。違いを学び、成長し、完全に統合された人になる方法です。」(パレードマガジン 2020年9月11日)

私たちの総会は、出会う人が誰であれ、どんなに違っていても、全ての人の声に誠意をもって聴く能力の開放性を呼びかけています。それはチャレンジであり、恵みです。

リチャード・ローアが、ラマ・ロッド・オーエンズの言葉を引用します。

すべての存在が理解され、親切にされ、愛されますように。アーメン

これが私たちの祈りでもありますように。

個人または共同の省察

他者を理解するために、チママンダ・アディチエの「[シングルストーリーの危険性](#)」のテッド・トークを聞いてほしいと思います。(吹き出しボタンをクリックし、日本語字幕として「日本語」を選択します。)